令和４年度

赤羽根の里だより

茅ヶ崎市立赤羽根中学校　学校便り　　令和４年８月２２日（月）

校長　髙橋　励

あと十日たらずで葉月も終わり。

暑い夏でした（暦の上ではすでに秋ですね）が、それぞれのご家庭でよい時間を過ごされたことと思います。昭和生まれの私が子どものころから**「ナツヤスミ」は新たな「ヒト・モノ・コト」に出会う、発見や冒険、成長の機会**として、物語の舞台となるものですが、子どもと同様、教職員にとっても夏季休業中は自己研鑽に取組める時間。いつもは目の前の生徒最優先の日々を送っていますが、この時期は少し、自分自身のパフォーマンスを高めること（リフレッシュも含めて）にそれぞれ時間を使っています(…とはいえ、お盆前までは部活動の指導や大会引率、夏季の学習会、前期期末試験の作問に後期の授業準備など、赤羽根中の子どもたちのために時間を使っている姿を多く見かけています）。

ちなみに、この夏、私が出会った「ヒト・モノ・コト」の一つに「利他」というものの見方がありました。ザッピングでNHKの「SWITCHインタビュー　達人達」のUA×中島岳士の回を何気なくみたのが出会いのきっかけでした。

《「利他」とは、**他人に利益となるように図ること。自分のことよりも他人の幸福を願うこと**》と基本的な考え方を示した上で、中島さんは「“利他”を考える時に、僕は“沿うこと”がすごく重要と思ったんです。**相手に沿いながら、その人のポテンシャルが引き出される時に、とても重要な瞬間があると思うんです**。」とお話されていたのが印象的でした。

番組は、とある料理研究家のものの見方・考え方やNHKのど自慢のバックミュージシャンの話などを交えながら話題を展開していくのですが、今まさに目の前で成長していく子どもたちにかかわるオトナのあり方が語られていると、私には感じられました。ネットで「中島岳士」と検索してみると、いくつかの書籍がヒット！翌日、近所の書店でまずは新書を一冊購入して、いろいろ考えながら読みました。

さて、以上、個人的なひと夏の出会いの話でしたが、**赤羽根中に通う子どもたちは、どんな「ヒト・モノ・コト」に出会えたのでしょうか？**ひとりひとりが何か広がりや深まりを感じながら八月三十一日がスタートできることを願っています。

＊＊

【校長のつぶやき】

○この夏、「平和」についてご家族で話題にされる機会はありましたか？茅ヶ崎市の「平和について」作文コンテスト入賞者2名（本校2年生）の作品を階段に掲示してみました。ご来校の折にはご一読ください。

○中体連の夏の大会など、この夏季休業中の活動のご報告は、8月31日号でお伝えする予定です。